

共同運営部門：中央検査部・輸血部・病理診断科

一組織・構成員一

<中央検査部>

部長：今北正美

科長：三ノ浦保彦 科長代理：原克則

主幹：栄川智子、中村雅美

臨床検査技師（総数）：30名（うち、非常勤1名、臨時嘱託員4名）

<輸血部>

部長：福島健太郎

輸血部担当技師：4名（他部門と兼務者含む）

<病理診断科>

部長：今北正美

病理担当技師：5名（他部門と兼務者含む）

一基本方針・目標一

<基本方針>

- ・常に患者様の立場に立って考え行動します。
- ・精度の向上を計り、良質な検査結果を提供します。
- ・業務・経営改善に努力し効率のよい検査を行います。

<目標>

- ・検査の迅速化を行い、待ち時間の短縮に貢献する。
- ・検査技術のさらなる向上を目指す。
- ・チーム医療の一員として貢献する。

一認定検査士一

・超音波検査士

（消化器領域）8名、（循環器領域）5名、（表在領域）5名

（泌尿器領域）3名、（血管領域）2名、（健診領域）2名

・細胞検査士（日本資格）5名、（国際資格）2名

・認定血液検査技師 2名

・骨髓検査技師 1名

・認定輸血検査技師 1名

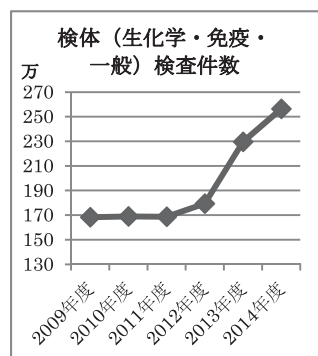
・救命検査認定技師 2名

・緊急臨床検査士 1名

一各部門の概要及び実績一

<検体（生化学、免疫、血液、一般）検査部門>

2014年度の検体検査総数は250万件を突破しており、これは前年比約10%増であった。各測定機器の稼働率をあげることで対応したが、測定装置の老朽化や処理能力不足を痛感した。



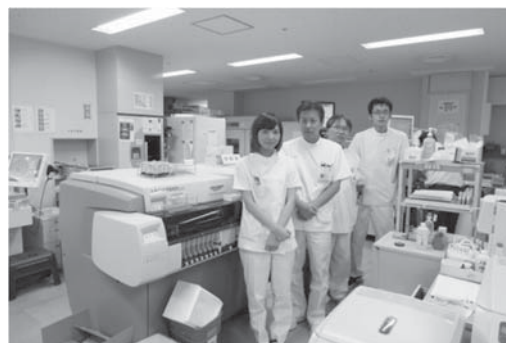
次年度においては、各測定機を更新し、更なる検体数や新規検査項目の増加への対応が必須と思われた。

（外来）	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生化学的検査	87,166	85,663	88,575	95,340	87,975	88,876
血清・免疫学的検査	7,116	7,062	7,430	7,921	7,128	7,075
血液学的検査	14,009	13,469	13,893	15,135	14,063	13,998
一般検査	14,046	13,884	14,482	16,006	13,938	14,958
合 計	122,337	107,699	124,380	134,402	123,104	124,907

（外来）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学的検査	95,844	80,478	85,496	92,458	79,829	88,596	1,056,296
血清・免疫学的検査	7,968	6,721	6,762	7,450	6,708	7,225	86,566
血液学的検査	15,084	12,748	13,415	14,536	12,743	14,369	167,462
一般検査	15,554	12,806	14,392	14,716	13,245	15,058	173,085
合 計	134,450	115,119	120,065	129,160	112,525	125,248	1,483,409

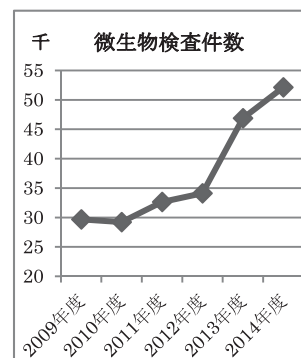
（入院）	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生化学的検査	60,319	66,547	64,753	66,294	63,591	63,740
血清・免疫学的検査	1,308	1,285	1,150	1,214	1,236	1,038
血液学的検査	12,517	14,037	13,613	13,993	14,276	14,318
一般検査	9,482	10,105	9,791	12,088	11,724	10,248
合 計	83,626	91,974	89,307	93,589	90,827	89,344

（入院）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学的検査	61,991	60,736	66,308	66,931	59,097	66,189	766,496
血清・免疫学的検査	1,085	1,028	1,090	1,386	1,003	1,178	14,001
血液学的検査	13,938	13,246	14,277	14,821	13,712	15,275	168,023
一般検査	12,934	11,424	11,746	11,474	10,161	10,527	130,908
合 計	89,948	86,434	93,421	94,612	83,973	93,169	1,080,224



<微生物学的検査部門>

2014年度は前年度に比べ、外来での件数が増加した。これは救急外来において積極的に培養が採取されるようになった事が一因にあげられる。また、総合内科・感染症内科の外来患者の増加に伴い、時間内のグラム染色の至急依頼が増加した。細菌室を訪れた医



師とともに鏡検する機会が増え、診断に貢献することが出来ていると考えられる。

抗酸菌検査は外来での件数も増加しているが、一昨年・前年度より継続して入院での件数が増加している。1日だけではなく、3日連続して痰を採取し、排菌を確認する事例が増えたからと思われる。

生理機能検査部門の新生児聴力検査(ABR)を担当し、他部門への協力も継続して行っている。

(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
微生物学的検査(一般)	830	759	756	1,009	873	965
微生物学的検査(抗酸菌)	117	95	132	107	102	152
微生物学的検査(迅速)	202	125	168	181	155	175
合 計	1,149	979	1,056	1,297	1,130	1,292

(外来)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
微生物学的検査(一般)	932	808	773	925	764	1,040	10,434
微生物学的検査(抗酸菌)	146	106	92	76	87	146	1,358
微生物学的検査(迅速)	102	169	310	393	218	255	2,453
合 計	1,180	1,083	1,175	1,394	1,069	1,441	14,245

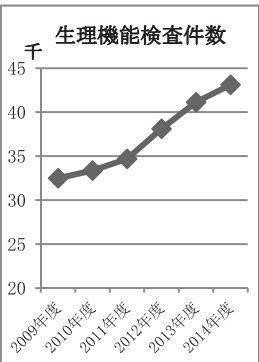
(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
微生物学的検査(一般)	3,011	3,175	2,718	3,042	2,686	2,834
微生物学的検査(抗酸菌)	125	84	181	127	127	112
微生物学的検査(迅速)	39	21	20	23	14	23
合 計	3,175	3,221	2,919	3,192	2,827	2,969

(入院)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
微生物学的検査(一般)	3,098	3,052	3,162	3,311	3,031	3,148	36,209
微生物学的検査(抗酸菌)	104	71	80	47	66	81	1,205
微生物学的検査(迅速)	25	31	64	117	43	49	469
合 計	3,227	3,154	3,306	3,475	3,140	3,278	37,883



<生理機能検査部門>

2014年度は新たに超音波認定試験で2名の合格者(腹部部門・泌尿器科部門)が増え計8名となった。しかし救命ICU・5山病棟・りんくうICU 他の病棟のポータブル検査の依頼が超音波検査全体の約15%を占め、検査件数は純増を続けており、今後の運営においてマンパワーの不足が懸念される。又、心血管エコー検査において当日枠の見直しを行うことにより待ち時間の短縮を行った。救命でのABRも始まり、救命脳波の件数も前年度に比較し、2倍に増加した。また病診連携において地域医療連携の院外の超音波検査を随時受け入れ、当日に検査を行っている。



生理機能検査(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	1,111	1,116	1,123	1,198	1,059	973	1,170	1,008	963	1,070	952	1,073	12,816
負荷心電図(トレッドミル含む)	105	102	117	108	106	85	137	95	94	97	96	88	1,230
ホルター型心電図	36	35	28	28	28	30	50	18	26	37	21	30	367
簡易呼吸機能	288	273	312	341	285	302	304	258	287	312	282	329	3,573
精密呼吸機能	8	10	8	7	5	5	3	3	6	6	3	5	69
脳波	17	7	12	14	4	6	7	4	11	8	9	13	112
脳波(小児)	11	5	4	12	18	10	9	3	8	18	6	11	105
ABR(新生児)	2	4	4	7	7	6	4	4	10	5	6	1	60
ABI・CAVI	171	152	169	177	120	143	170	157	167	158	153	180	1,917
SPP	4	5	5	4	2	5	7	9	5	6	5	9	66
中心血圧	81	69	81	98	75	71	88	75	73	84	80	101	976
呼吸抵抗	25	14	29	25	20	20	18	18	32	28	15	29	273
腹部エコー(甲状腺を含む)	414	394	384	426	365	376	432	353	334	366	305	356	4,505
表在エコー	87	84	84	88	79	95	97	90	81	93	106	116	1,100
乳腺エコー	76	80	73	99	111	120	126	106	124	112	123	134	1,284
心臓エコー	452	420	420	448	395	339	466	373	366	377	371	426	4,853
血管エコー	226	230	210	259	241	222	232	184	199	186	209	218	2,619
関節エコー	4	2	3	1	2	2	1	1	0	2	1	1	19
合 計	3,118	3,002	3,066	3,340	2,922	2,804	3,317	2,759	2,786	2,964	2,743	3,123	35,944

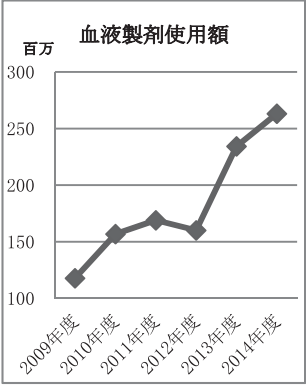
耳鼻科外来聴力検査	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
標準純音	105	120	114	166	128	106	105	88	92	99	78	114	1,315
簡易聴検	153	185	146	201	176	169	246	151	190	159	158	192	2,126
気骨導(L)	6	11	4	8	3	3	3	1	5	5	6	4	59
気骨導(R)	3	4	1	3	6	4	1	1	5	5	5	7	45
ABLB	2	3	2	4	5	6	5	4	10	8	2	11	62
SISI	1	0	0	0	1	1	1	0	3	1	0	0	8
ディンパノ	64	66	37	101	74	50	69	45	47	65	53	63	734
耳小骨筋	13	15	7	7	10	6	9	4	5	7	5	9	97
OAE	9	6	10	5	14	5	12	4	4	3	9	11	92
電気味覚	2	13	6	6	7	2	3	3	4	10	2	5	63
ディスク味覚	1	1	4	2	3	3	1	0	1	4	1	5	26
語音	0	1	3	1	1	0	1	0	3	1	0	0	11
aABR	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	6
ABR	4	3	6	8	11	3	3	2	2	3	5	3	53
ASSR	3	2	4	8	11	3	3	2	2	3	5	3	49
ENoG	6	8	6	4	6	1	3	1	3	6	1	4	49
日記	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合 計	374	438	351	524	456	363	466	306	376	380	331	431	4,796

生理機能検査(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	152	166	167	135	123	126	113	102	104	110	120	136	1,554
負荷心電図(トレッドミル含む)	13	6	19	7	10	11	5	9	9	10	2	8	109
ホルター型心電図	5	4	5	5	4	9	7	4	2	8	6	1	60
簡易呼吸機能	21	34	28	26	19	19	22	28	16	25	22	22	282
精密呼吸機能	1	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	6
脳波	5	14	11	16	6	10	9	11	7	3	5	9	106
脳波(小児)	2	2	2	1	1	0	0	1	1	1	0	0	11
ABR(新生児)	48	63	53	56	57	63	66	55	63	47	56	65	692
ABI・CAVI	31	18	28	37	27	38	33	35	39	24	25	31	366
SPP	1	5	4	1	6	2	5	4	4	3	2	4	41
中心血圧	4	0	8	12	7	16	18	25	24	19	12	13	158
呼吸抵抗	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
腹部エコー	90	93	84	76	72	82	51	50	68	64	57	74	861
表在エコー(甲状腺を含む)	1	1	7	1	4	1	0	5	2	2	7	0	31
乳腺エコー	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	1	6
心臓エコー	185	166	186	187	143	165	164	152	172	196	176	188	2,080
血管エコー	73	73	66	72	35	63	44	54	72	81	62	82	777
関節エコー	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	3	0	8
救命ABR	0	0	0	0	1	0	3	1	0	1	0	1	9
合 計	633	645	669	636	516	607	542	539	584	595	555	635	7,159



＜輸血部＞

4月に福島新部長を新たに迎え、2014年12月15日「宗教的な事由等による輸血拒否」の患者対応に関する輸血療法マニュアルの改訂をおこない、見解を院内掲示および病院ホームページでの告示し運用を開始した。また、2015年より輸血製剤の使用記録・コスト算定についてペーパーレス化を推進している。RBC廃棄率が前年より高くなっており、数回にわたって見直しを行った。また依頼件数は外来の血液型検査・スクリーニングは前年より増加しているが、入院の輸血関連検査はすべて減少している。RB



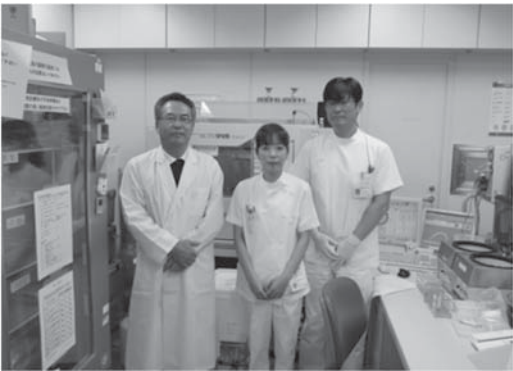
C・FFPは使用数が前年より減少し、PCは増加している。

輸血関連検査 (外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	534	572	596	606	592	533	580	507	521	569	531	589	6,730
スクリーニング	132	138	142	163	149	144	162	139	153	160	138	153	1,773
直接クームス試験	2	5	1	1	3	3	4	3	2	2	2	2	30
間接クームス試験	79	100	85	82	88	79	80	76	63	77	74	83	966
合 計	747	815	824	852	832	759	826	725	739	808	745	827	9,499

輸血関連検査 (入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	58	141	125	150	126	142	143	133	127	122	109	145	1,521
スクリーニング	5	0	0	1	1	2	1	2	1	0	1	0	13
直接クームス試験	4	2	8	4	4	0	1	3	3	5	1	7	42
間接クームス試験	14	13	19	15	23	20	15	17	11	8	9	25	189
合 計	81	156	152	170	154	163	161	154	141	136	119	178	1,765

輸血検査、血液製剤使用額、廃棄額 (外来・入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
血液交差試験 (RCC) (単位数)	891	1,272	803	694	832	807
血液交差試験 (FFP) (単位数)	738	974	646	336	436	602
血液交差試験 (PC) (単位数)	885	1,330	1,330	775	670	1,135
自己血貯血 (単位数)	30	22	29	26	16	25
血液製剤購入額 (万円)	2,029	2,940	2,253	1,473	1,518	2,018
血液製剤廃棄額 (万円)	14	18	62	44	0	21
RCC廃棄率 (%)	1.7	1.6	7.7	5.5	0	2.7

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液交差試験 (RCC) (単位数)	779	1,006	734	1,003	954	990	10,765
血液交差試験 (FFP) (単位数)	428	798	396	626	830	730	7,540
血液交差試験 (PC) (単位数)	1,330	1,460	1,190	1,370	1,400	1,710	14,575
自己血貯血 (単位数)	20	12	16	36	18	26	275
血液製剤使用額 (千円)	1,965	2,635	1,834	2,433	2,529	2,692	26,319
血液製剤廃棄額 (千円)	47	32	14	9.7	23	25	309.7
RCC廃棄率 (%)	6.2	3.9	2.4	0.3	3.4	2.3	



＜病理診断科＞

2014年3月より、自動固定包埋装置の更新を行うことにより、検体処理能力が向上した。また、臨床の要望に応え、これまで外部委託であった、ポテリジオテストIHC検査 (コンパニオン診断) を院内で実施することにより、検査日数の短縮がされた。病理件数は、前年度に対してほぼ横ばいであった。現在、機器の老朽化に伴い、故障が目立つ。今後の課題としては、機器更新が急がれる。

(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織標本作成	194	163	192	203	153	158	210	166	148	175	173	183	2,118
術中迅速病理組織標本作成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
細胞診 (婦人科材料)	395	364	426	318	295	365	431	334	322	311	315	442	4,318
細胞診 (その他材料)	156	179	175	198	137	169	194	142	154	154	151	182	1,991
合 計	745	706	793	719	585	692	835	642	624	640	639	807	8,427

(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織標本作成	224	245	246	254	245	222	222	227	210	224	186	216	2,721
術中迅速病理組織標本作成	20	16	22	29	22	16	19	18	24	19	10	19	234
細胞診 (婦人科材料)	5	2	4	1	3	2	1	0	2	1	2	2	25
細胞診 (その他材料)	58	37	35	40	41	43	43	43	51	48	25	39	503
合 計	307	300	307	324	311	283	285	288	287	292	223	276	3,483

